

天竜の杉檜と生きる

〒431-3306
静岡県浜松市天竜区船明 880
TEL:053-926-1232
FAX:053-926-2879

新春号

本年もよろしくお願ひ致します。



新年のご挨拶

明けましておめでとうございませう。旧年中は格別のご愛顧を賜り誠に有り難うございます。本年もよろしくお引き立てのほどお願い申し上げます。

昨年を振り返ると、建築確認申請の認可が遅れて7月頃から荷動きが停滞し、木材をはじめ建築に関わる全ての業種で大きな影響を受けました。一握りの悪徳業者の違法行為が、無差別に善良な業者をも脅かす法律の改定方法に、憤りをおぼえるのは私だけではないと思います。今後、速やかに回復するよう働きかけていきたいと思っております。

また、林業を取り巻く環境が大変厳しい中、全国各地で新生産システムによる大型工場が立ち上がりコストダウンの動きが始まりました。それによって商品がダブつき、安売り合戦になっては元も子もありません。

要は、山にどれだけ還元できるかが大切です。山村が減び、山が崩壊するのはなんとでも避けなければなりません。品質面や対応面でお客様にさらなる信頼を得られるフジイチとして、ますますの顧客接点を築き、利益を山へ還元できる天竜型のシステムを模索し、そして構築していきたいと思っております。

代表取締役社長 内山弘

GOOD DESIGN IS GOOD ARCHITECTURE

いい設計 ありがとうございます
いい大工 いい素材

GOOD ARCHITECTURE IS GOOD LIFESTYLE



三立木材の家 NAPLE(ネイプル)

日本全国に知られるブランド材“天竜美林”。“三立木材の家”はその優れた材質そのままに「無垢材」にこだわり、健康空間をお届けします。

五月雨を集めて速し天竜川
(常務 鈴木義明)

のある月地区が私の出身地です。この光景からは想像できないと思いますが、昭和五十年以前は川の真ん中に大きい中洲があり、対岸まで三十メートル位の幅の急な流れがありました。中学生になるとみな楽しんで(強制的?)に天然プールで泳ぎます。泳ぎの苦手な子には上級生が命懸けで指導するのが当たり前、下級生も素直に教えを受けていました。更に中洲から五百メートル上流には木造船の渡しがあり、通勤通学の足だったんです。川は流れがあるのが自然ですね。

長野県諏訪
湖を發し遠州
灘に注ぐ全長
二百五十キロ
の大河 天竜
川。船明ダム
湖を有効利用
したポイント場

天竜人語

TEN RYU JIN GO

植林 製材 建築

詳しくはお電話で!

053-926-1232

「見学・体験会」
ご案内しています

フジイチの
大切なお客様に。
山と木と家を知るツアー

イベント案内

- 1月9日～31日
農材短大生研修
2回目の研修。もう要領はOK?
- 1月13日
佐伯くん、杉森さん成人式
大人の仲間入り。
2人のこれからにも期待です。
(^o^)x
- 1月17日
秋葉神社詣で
今年は特に念入りにお参りしてきます。
- 1月21日予定
浅岡弘俊くん入社
やる気のある若者がまた入社してくれます。
- 4月5日
植林体験ツアー
雨よ降らないでくれ～。
今年こそ皆さんに植林を体験していただきたいです。

温故知新

フジイチ社員 大紹介 ■大城 友衛さん ■前沢 和秀さん

いや、呼んでもらってありがたい。忘れてたかと思ってた。

昔話かね。そうだな...

■ものがない時代

おらは結東の手伝いとして入ったんだけど、最初はポンを使った水汲みをやっていたね。当時工場は丸鋸の大きなやつと小さなやつ2台あって、水筒式だったんだよ。その水を天竜川から人力ポンプで汲み上げていた。この仕事は本当につらくてね。「いやになっちゃったよ」と親に言ったら、「何言ってるんだ。まだ始まったばかりじゃないか」と叱られたよ。

物がない時代でも、寒いときは新聞紙を背中に入れてたな。軍手も高かったから大事にしたよ。

これが横山にあった工場。



横山の工場は国道の下にあって、あまり製品を積むとトラックが坂を登れなかったんだ。だけど、アメリカ製のトラックは登っていったのでみんなおどけてたよ。ありやすかった。

土場の丸太もがんこ横であるだろう。6m上の国道のさらに上まで井桁に組んである。これは全部肩で担いで組んだんだ。当時は山の土場でも井桁に林を組んでいたから、切口に干割れが入るほど丸太が良く乾いていた。だから尺丸太も持ってたんだよ。今じゃ杭棒丸太でも重いがね。

結束の縛りは縄でやって、膝で押して締めていたもんで腰が「羊の腰んぼう」みたいに硬くなったけど、働いてうれしかった事といえば、小田原の客さんが来社するたびに工場に来て「ごろうさま。フジイチの製品は他と違い内容が安定しているいいよ。」と言ってくれてね。あれはうれしかったな。なんしろ「まかしちやいかんよ。次も買ってくるためにね。」

製材会社も昔は多くてね。横山地区だけで製材が15社ほどあって、野球大会もやったことがある。フジイチは強かったぞ。

■あの火事があつてこそ

忘れもしない昭和35年1月17日21時過ぎ、工場炎災おきた。

当時は横山に映画館があり、映画を見た後の方が発見してくれたんだ。

原因は不明なんだが、モーターの加熱でお粉に火がついたんじゃないかと思う。

がんこな火事で火がボウボウ出てたんだ。そのとき大將「初代社長のことをみな大將と呼んでいたが工場より隣家を守れ」と言っていた。みなで消火にあたったんだ。工場は全焼してしまったけど、隣には少しも火がつかなかったよ。

工場を再建するのが大変だった。給料をカットされたんだが、朝早くから夜遅くまで働いたよ。

景気も向上したため、焼け残った丸太でも売れたんよよかった。(続)

三代目工場長 大城 友衛さん (77)
Tomoe OOSHIRO
昭和23年1月2日入社。
18歳で入社してから定年まで42年間。
それから10年働いていただきました。



みなさん始めて。山林部の前沢和秀です。私の仕事は下刈り、枝打ち・伐採・出材と山仕事全体をやっています。大自然の中の仕事は時間に追われることがなくのんびりできるし、お昼ご飯は室内で食べるのと違い、山で食べるのとよりいっそうおいしく感じます。

先日、4日間の基幹林業作業士養成研修が終わりしました。静岡県内の森林組合や事業所から集まり、山仕事に必要な資格をとる研修でした。私の目標は林業架線作業主任者免許で、その難しい試験にも見事合格。仲間も全員合格でき、充実した研修になりました。

山仕事というと昨今、高性能林業機械がクローズアップされがちですが、日本の急峻な地形上、今後も架線作業は絶対必要だと思うので、どんな場面でも「あいつに任せれば大丈夫」と言われるような作業士になりたいと思います。今後も初心を忘れず、さらにレベルアップしていきたいと思っておりますので、皆さんよろしくお願いたします。

前沢 和秀 (21)
Kazuhide MAEZAWA
浜松市龍山町出身



「テンダス」森のアウトレット



「えっ、これチップになっちゃうの?」
「これ製品にならないの?」

丸太から製品になる過程において端材が出てきます。お客様により良い製品をお届けするためには仕方ない事なので。しかし、なにかとかがりった端材を上手に利用できないかと常に思考しているところです。

「森のアウトレット」
年に2回(七月、十二月)に行われるイベントで「テンダス」(天竜材を世に出す会)が主催しています。こ

では、ふだん製材所で製品化されないものや、ちよつとした小物(スノコやベンチ、木箱)を格安で販売しています。ダイニングテーブルになりそうな一枚板などは、毎回注目の的です。身近なところから、多くの人にこの天竜の木にふれていただき、木の良さをもちと知っていただくとう始めたイベントです。

「森のアウトレット」
16日に、おかげさまで15回目の一森のアウトレット」が行われ、千人以上の方々



内山 功

が足を運んでくれました。まずはDIY(DIY Yourself)から始めてみませんか? DIYファンのみならず一見の価値あり。次回(来年6月)もご来場をお待ちしております。

浜松 れんれんゼミ

去る12月6日(木)と7日(金)の2日間、町の工務店ネットワークが主催する「れんれんゼミin浜松」と言うセミナーに参加して参りました。北は北海道、南は九州から約100名の参加者があり、そのほとんどが各地地元工務店さんの集まりで、「町並みは、その土地の職人による定番住宅によって造られた」と言い、現在の申請手続きの遅れによる住宅着工数の減少など嘆のように元気いっばいの工務店さんばかりで、そのパワーに圧倒させられる2日間でした。

1日目は3件の現場見学(うち2件はフジイチの現場見学)と名古屋大学名譽教授の平島先生による講演、2日目は元OEM研究所副所長の武山先生「近くの山の木で家をつくる運動宣言」起草者、小池一三氏による講演など盛りだくさんの内容でした。

地元を含め、全国にはまだまだ元氣な工務店さんがいっぱいいます。彼らに負けないように良い材を供給する事が我々の使命だと感じた2日間でした。

内山 忠彦

業界動向「先を読む」

「コスト削減!コストカット!」という世の中念仏のようにコスト削減の合唱ですが、製材業においては、新生産システム(大量生産型、大規模工場)によるコストの低減。山林業においては、大型機械の使用、大面積の施工、列状間伐なる施工によるコストの低減。

それでも、5千円のコストで1万円で作るのなら、1万円コストで3万円で作ればいい。日本古来からの正確で丁寧な「ものづくり」我々の世界も見直していきたいものです。

(石野)



今月のびくちや

写真を見ると、「一見「鳥の巣?」と思えますが、樫の実生(自然に木から種が落ち、発芽したもの)が生えていました。このように、ほんの少しの栄養分を使っ



木々は育ち、そして天竜の山ができていきます。(岩本)